

国際会議発表支援制度報告書

氏名：西村 恵

参加した国際会議名称：

2025 IEEE International Symposium on Applications of Ferroelectrics (IEEE ISAF 2025)

開催日：7月13日～18日

開催場所：グラーツ大学(オーストリア)

発表内容：

会議では、「Neuromorphic Sensing for Alternating Current Using Piezoelectric Resonator」というタイトルで口頭発表を行いました。我々のグループでは、物理現象が示す非線形性をそのまま計算資源として利用する「物理リザバーコンピューティング」という機械学習手法を、圧電共振型電流センサと組み合わせることで、センサデバイス上での電流情報の学習が可能になると考えています。本発表では、圧電共振型電流センサを用いた機械学習システムのパターン認識能力を評価するために実施したいくつかのタスクについて報告しました。

会議参加の感想：

今回オーストリアのグラーツで開催された国際学会 IEEE ISAF 2025 に参加し、自身の研究成果を発表するという貴重な経験を得ることができました。はじめての国際学会での口頭発表ということもあり、当初は大きな緊張を感じていましたが、発表後の質疑応答では参加者から建設的なフィードバックや温かい励ましの言葉をいただき、自分の研究の意義や今後の課題を改めて見つめなおす機会となりました。

本学会では、異なる専門性や視点を持つ海外の研究者による発表を多数聴講することができ、それぞれの研究に対するアプローチの違いや、独自の発表スタイルに大きな刺激を受けました。特に、シンプルでありながら説得力のあるプレゼンテーションや、聴衆とのインタラクションを重視した発表方法からは多くの学びがあり、今後の研究発表の参考にしたいと感じました。

また、今回の参加にあたって個人的な目標としていたのが、他国の学生や研究者と積極的にコミュニケーションを取ることでした。ポスターセッションやコーヒープレイクなどの時間を活用し、実際に多くの参加者と交流することができました。中でも印象的だったのは、非常に優秀で意欲的な学生が多く、互いの研究内容について自然と議論が始まり、互いに刺激を受け合うような対話ができたことです。このようなやり取りを通して、英語での発信力や、異なる立場や文化的背景を持つ相手との対話力の重要性を強く実感しました。

今回の経験を通して、研究者にとって専門性を高めることと同じくらい、他者とのコミュニケーション能力や国際的な視野を持つことが重要であると感じました。今後は、自身の研究をより深めるとともに、国際的な場でも自信をもって発信し、議論できる力を身に付け、グローバルな視点から社会に貢献できる研究者を目指して努力を重ねていきたいと思っています。